

令和4年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センターえぶりわん鶴瀬Nisi

日時及び場所	参加者	討議内容(地域課題・対応・今後の課題など)
6月16日(木) 13:30~15:00 鶴瀬西交流 センター 集会室	医師 1名 町会長2名 副町会長 0名 民生委員 4名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 1名 健康増進センター 1名 薬剤師2名 高齢者あんしん相談センター 4名 計19名	「独居高齢者の支援」 《ケース概要》 ・認知症のある要介護2の女性。娘は2人とも遠方に在住で支援が困難。ひと月に6回警察に保護されている。多機能を利用、靴にGPSと対応しているが所在を把握するにはどうしたらいいか。 ・90代、子どもいない。甥は入院時から関わりを拒否。5月に退院したが病院に行かない、薬を飲まない。体調不良時その場その場でしのいでいる。 ・物忘れのある男性。薬が飲めておらず2ヶ月分残っていた。糖尿病で医師に相談するとすぐに対応してくれ、朝のみの飲み薬に変更となった。 《対応》 ・複数の病院を受診し、薬が重複している場合がある。薬局では残薬に関してどこの病院でもらった薬も共通のバッグに入れ2~3ヶ月に一度余りや足りない等確認するようにしている。連携していけたら良い。 ・日常的に散歩している方へ声かけ、自宅の電気がついていなかったら大丈夫かなと気にかかる等引き続き見守りを行っていきたい。 ・緊急時連絡先システムは利用には調査があるが勧めたい。 《今後の課題》 ・CMが受け持つ件数の半分以上は認知症の方。毎日何かある。町全体で見守るシステムや協力が必須。 ・近所付き合いが嫌いな方もいる。何かあった時隣近所で助けられるか。ゆるやかな情報交換ができないか。 ・若い世代は高齢者に声をかけにくい。「見守りの日」や防災無線の提案。
10月20日(木) 13:30~15:00 鶴瀬西交流 センター 集会室	医師 1名 町会長2名 副町会長 0名 民生委員 4名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 2名(うち1名実習生) 高齢者福祉課 1名 健康増進センター 1名 薬剤師2名 高齢者あんしん相談センター 4名 計20名	「要介護者の家族介護力を考える」 《ケース概要》 ・50代長女と70、80代の両親3人暮らし。長女は障害から理解力低下。父親のものの忘れが気になり受診してもらいたいが病院嫌い。母親は精神科受診、加療中。聞き取りを重ねており、障害福祉課と高齢者福祉課と連携図る。 ・40代長男が認知症の80代の両親を介護。長男は精神面の疾患歴にて通院加療中。両親のことで追い詰められ「死にたい」との発言あり。母親の在宅支援、入院支援、長男の精神面の支援を行っていく。 ・50代の妻(外国籍)が寝たきり状態の60代の夫を介護。夫は脳梗塞後ほぼ寝たきり。妻の言葉の壁、経済状況、制度の理解力不足。介護保険代行申請したが受診進まず取り下げされる。 《対応》 ・町会でフォローしていきたい。共倒れしないように声かけをして、話をしてストレスを緩和させたい。 ・民生委員、町会長、自治会、まちづくり協議会、病院、介護保険事業者等、色々な機関との連携が必要。 ・病院受診が大変。「認知症」という言葉を出さずに検査をお願いすることができる。 《今後の課題》 ・介護者サロンの運営側が高齢化により解散しているが、ニーズを把握してやりたいという方の活動を支援していくことが必要。 ・サービスに繋がらない方が多くいる。その方の能力を活用できる場所、仕事をして報酬をもらえるような、行きたいと思う社会資源ができると良い。

<p>3月16日(木) 13:30～15:00</p> <p>鶴瀬西交流 センター 集会室</p>	<p>医師 1名 町会長 2名 民生委員 2名 介護支援専門員 3名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者支援課 1名 健康増進センター 1名 薬剤師2名 高齢者あんしん相談センター 4名</p> <p>計17名</p>	<p>「自然災害時の高齢者支援」 《ケース概要》 ・第三圏域では水害は少ないが、地震で予想される状況を共有する。今回のテーマで2グループで課題について話し合い、日頃から気になることや心配なところをマップに印をつけたり付箋紙に記入してもらった。 ・薬剤師から薬を理解しているか、薬手帳を日頃から持っているか、高層住宅の停電によるエレベーター停止、道路が狭い、空き家倒壊等意見があがった。医療として中核拠点病院はイムス富士見、トリアージの取り組みになるだろう。心理面のフォローも大切。市役所の取り組みとして避難行動要支援者支援事業の紹介をする。 《対応》 ・日頃から災害について真剣に考えていないが、真剣に考える機会になった。 ・避難行動要支援者リストは町会長と民生委員しか持っていないので、自分たちだけでは到底行動できない。 ・薬手帳が大切とわかったので常に身に着ける方法を周知したい。 ・周りの人を助けることができるか。自分だけ逃げたら罪悪感が残ってしまう。 ・中学生は力があるので協力を仰げるのではないかと、防災教育をしてほしい。 《今後の課題》 ・日中高齢者が多く自分のことだけで精一杯。人を助ける余裕と力が足りない。 ・近所付き合いをしない人が増え、支援したいが個人情報で手が出せない。 ・道幅が狭く救急車や消防車が入れないところがある。 ・教育委員会へ中学生向けに災害時の協力体制の教育を取り入れてもらう。 ・災害時の安否確認、避難支援、普段の見守り体制をともに行う体制づくり。 ・薬手帳を日頃から持つように啓発活動。 ・東日本大震災後、薬剤師会では薬の供給体制ができています。 ・自助努力で自ら逃げる事ができる体力作りをしていく。</p>
---	---	--